日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話｛（鉄電） 千葉 2935・2936番
（公） 043（222）7207番
※ 電話番号は4月29日から変更になります

92.5.22 No. 3595

闘う沖縄の仲間たちと感動的に合流

反戦・闘う労働運動 沖縄派遣の創造を誓う

初夏を思わせる蒸し暑さと、バケツの水をひっくり返したようなスコールに見まわれながらも、沖縄派遣団十一名は、中野委員長を先頭に、元気いっぱいビッシリのスケジュールをやりきり、多くのことを学んできました。

この体験から得た貴重な成果を、今後の活動の中に大いに生かしていく決意です。

15日 沖縄の仲間 熱き魂と合流！

折からの集中豪雨の中で本土からの参加者二百名は、拍手とエールの交換で感動的に「平和行進団」と合流、八千人の大集会に参加、「PKO反対」「基地撤去」を共に誓いあった。

5・15、8000人結集の与儀公園

20年の節目に今後の沖縄の進むべき道を探った「復帰20年を問う」＝宜野湾市民会館

米軍演習監視ヤグラ▼・恩納村・

派遣二日目は、各地域で闘っている住民団体との交流・視察、基地見学を行い、午後四時からの「復帰二十年を問う」集会へと合流し、六時間にわたる真剣な提起・報告の中から、連合支配を許さない新たな闘う潮流形成を確認し、その巨歩を踏み出した。

琉球新報"も2面で集会大盛況を報道。

基調講演「沖縄と復帰20年」

今こそ考える時

復帰境に平和運動が転換

有銘 政夫氏（反戦地主・前中部地区労議長）

有銘政夫氏

復帰運動とは何だったのか。一九六〇年四月二十八日に復帰協が再結成された。復帰が日程に上った時から、安保体制の中に沖縄を組み入れることになると懸念したが、その通りだった。

七二年五月十五日を境に、平和な沖縄を望む運動の流れが変わった。質的転換と言っていい。

全労闘争を考えたい。六一年に結成され、六八年に首切撤回闘争があった。全労闘争で基地内から金網をけ飛ばす運動を展開し、軍事基地を撤去する運動を進めた。基地撤去と言いながら、首をつなげとある意味では矛盾した観点があった。遠ざけられた時も、即「首切り」をよしとするのではなく、手当を要求する立場にあると決着した。沖縄の平和運動、大衆運動、労働運動を語る時、この闘争を抜いては語れない。

PKOが通れば自衛隊が教材に出てくる。PKO粉砕はこの時期に重要。戦争の醜さを隠し、日の丸・君が代が出てきた。今こそ、真剣に考える時。地域の住民運動が大切になる。

沖縄・本土を貫く〈高教組会館〉反戦・派兵阻止を固く誓う。

最終日は、闘う沖縄の仲間との膝を付き合わせての交流会である。切り開かれた地平を継承・発展させることをしっかりと誓いあった。最後に、全軍労・マリン支部の天願副支部長の音頭で団結ガンバローを三唱し全国に散った。

感動のうちに3日間の行動を閉じた。

▲沖縄の仲間たちの力強い決意表明

お礼

今回の沖縄派遣にあたり全組合員から厚い御支援をいただきました。一同心からお礼申し上げます。この成果を今後の活動に十分生かす決意です。ありがとう御座いました。——青年部——

反合・運転保安確立！ 反戦・反核を担う労働運動を！